

④ 幼稚園専門教科問題の解答について（注意）

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「幼稚園」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
 - ア. 小問の解答番号は1から85までの通し番号になっており、例えば、25番を

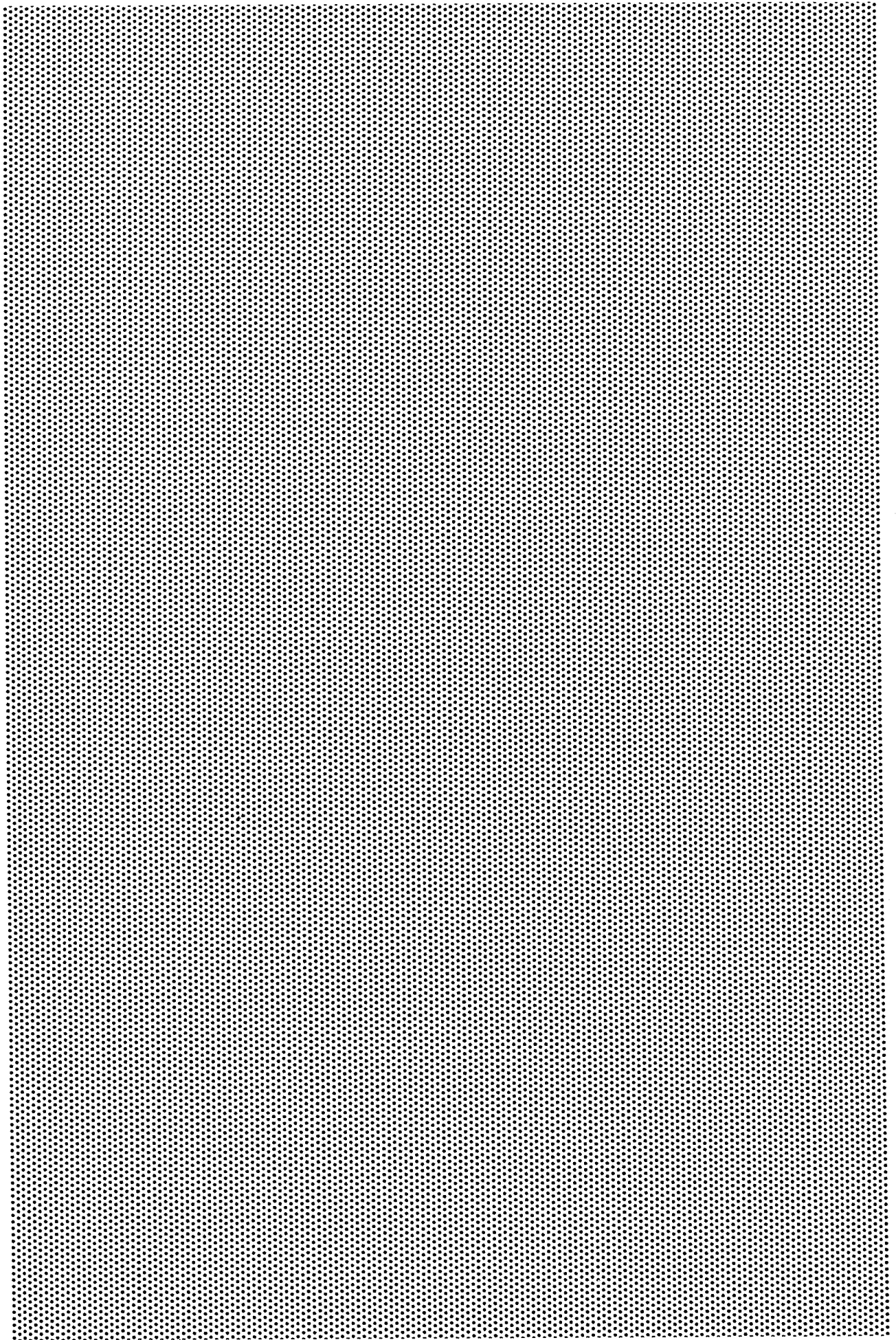
25

 のように表示してある。
 - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
 - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
 - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

（マークシート記入例）

フリガナ	コウベ タロウ	教科名	幼稚園
名前	神戸 太郎		

受験番号	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
		1 - 25		26 - 50		51
数字で記入……	1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	51	0 0 0 0
	2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
	3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
	4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
	5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
	6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
	7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
	8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
	9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
	10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
	11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0



【1】 次の(1)～(3)は、法令の条文である。(ア)～(オ)にあてはまる適切な語句をそれぞれ①～④から選び、記号で答えよ。

(1) 教育基本法第十条第2項

国及び地方公共団体は、家庭教育の(ア)を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

- ① 自主性 ② 独自性 ③ 自律性 ④ 方針

(2) 学校教育法第二十二条

幼稚園は、義務教育及びその後の教育の(イ)を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

- ① 基礎 ② 素地 ③ 意欲 ④ 関心

(3) 学校教育法第二十三条

幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な(ウ)を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- 二 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに(エ)の芽生えを養うこと。
- 三 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- 四 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- 五 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな(オ)と表現力の芽生えを養うこと。

- (ウ) ① 意欲 ② 技能 ③ 知識 ④ 習慣
(エ) ① 社会性 ② 自立心 ③ 協調性 ④ 規範意識
(オ) ① 心 ② 感情 ③ 情緒 ④ 感性

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
1	2	3	4	5

(4) 次の(カ)～(コ)の各法令に関する内容として適切なものを①～⑨から選び、記号で答えよ。

- (カ) 教育基本法 (キ) 学校教育法 (ク) 学校教育法施行規則
(ケ) 教育公務員特例法 (コ) 学校保健安全法

- ① 全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する。
- ② 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。
- ③ 一学級の幼児数は、三十五人以下を原則とする。
- ④ 国民は、個々の発達障害の特性その他発達障害に関する理解を深めるとともに、基本理念にのっとり、発達障害者の自立及び社会参加に協力するように努めなければならない。
- ⑤ すべての児童は、心身ともに健やかに生まれ、育てられ、その生活を保障される。
- ⑥ 幼稚園の教育課程その他の保育内容については、この章に定めるもののほか、教育課程その他の保育内容の基準として文部科学大臣が別に公示する幼稚園教育要領によるものとする。
- ⑦ この法律は、教育を通じて国民全体に奉仕する教育公務員の職務とその責任の特殊性に基づき、教育公務員の任免、人事評価、給与、分限、懲戒、服務及び研修等について規定する。
- ⑧ 学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の施設及び設備の安全点検、児童生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。
- ⑨ 幼稚園に入園することのできる者は、満三歳から、小学校就学の始期に達するまでの幼児とする。

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
6	7	8	9	10

【2】 次の（ア）～（コ）は、「幼稚園教育要領」（平成29年3月 文部科学省）「第2章 ねらい及び内容」に述べられている5領域の「内容」の一部である。それぞれの領域に属するかを①～⑤から選び、番号で答えよ。ただし、同じ選択肢を複数回使用してもよい。

- （ア） 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- （イ） 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。
- （ウ） 進んで戸外で遊ぶ。
- （エ） 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
- （オ） 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- （カ） 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- （キ） 健康な生活のリズムを身に付ける。
- （ク） 友達によさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
- （ケ） 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。
- （コ） 身近な物を大切にする。

① 健康 ② 人間関係 ③ 環境 ④ 言葉 ⑤ 表現

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）	（カ）	（キ）	（ク）	（ケ）	（コ）
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

【3】 次の文は、「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月 文部科学省）の指導計画の作成上の留意事項に関する記述である。適切なものを①～⑨から5つ選び、番号で答えよ。

- ① 長期の指導計画は、各学級の生活に応じた計画であることから、学級担任が自分の学級について単独で作成する。
- ② 幼児の一つ一つの体験は独立しており、他の体験と関連付けたりせず、一つ一つ丁寧に関わっていくことが大切である。
- ③ 教師が幼児一人一人にとって豊かな言語環境となることを教師自身が自覚する必要がある。
- ④ 学級全体の話し合いについては、型どおりに行われるのではなく幼児の必要感を伴ったものであることが大切である。
- ⑤ 行事は、幼稚園生活に積極的に取り入れ、保護者の期待に添うようにし、結果やできばえを重視して幼児を指導する。
- ⑥ 視聴覚教材や、テレビ、コンピュータなどの情報機器を有効に活用するには、その特性や使用方法等を考慮した上で、幼児の直接的な体験を生かすための工夫をしながら活用していくようにする。
- ⑦ 集団における幼児の活動がどのような意味をもっているのかを捉えるには、時間の流れと空間の広がりを理解することが大切である。
- ⑧ 幼稚園の教職員全員による協力体制を築き、教職員の誰もが、園児全員の顔や性格などが分かるように努めることが大切である。
- ⑨ 幼児は教師の行動に影響を受けやすいので、憧れを形成するモデルとなるようなことは控え、できるだけ目立たぬようにすることが大切である。

21	22	23	24	25
----	----	----	----	----

【4】 次の文は、「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～」(平成29年3月 文部科学省)の一部である。(ア)～(オ)にあてはまる適切な語句をそれぞれ①～④から選び、記号で答えよ。

○発達障害をはじめとする見えにくい障害については、通常の学級に在籍する教育上特別の支援を必要とする児童等のつまずきや困難な状況を(ア)発見するため、児童等が示す様々な(イ)に気づくことや、その(イ)を見逃さないことが大切です。

○児童等の行動等の背景にある障害の特性について正しく理解し、教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援につなげていくために、特別支援教育(ウ)やスクールカウンセラー等に相談してください。その後、必要に応じて、対象の児童等の対応について校内委員会やケース会議で検討し、(エ)支援を得られるようにしていくことが大切です。

○集団指導において、一人一人の障害等の特性に応じた適切な指導や必要な支援を行う際は、学級内の全ての児童等に「特別な支援の必要性」の理解を進め、互いの特徴を認め合い、(オ)関係を築きつつ行うことが重要です。

- | | | | |
|-----------------|---------|---------|------------|
| (ア) ① 早期に | ② 効率的に | ③ 効果的に | ④ 確実に |
| (イ) ① 表情 | ② サイン | ③ 所作 | ④ 言動 |
| (ウ) ① 支援員 | ② 指導主事 | ③ サポーター | ④ コーディネーター |
| (エ) ① 秘密保持に留意した | ② 個別の | ③ 継続的な | ④ 組織的な |
| (オ) ① 助け合う | ② 分かり合う | ③ 話し合える | ④ 支え合う |

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
26	27	28	29	30

【5】 次の文は、「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育【改訂2版】」（平成31年3月 文部科学省）の一部である。（ア）～（オ）にあてはまる適切な語句をそれぞれ①～④から選び、記号で答えよ。

安全な社会を実現することは、全ての人々が生きる上で最も基本的かつ不可欠なことである。安全とは、心身や物品に危害をもたらす様々な危険や災害が防止され、万が一、事件や事故、災害等が発生した場合には、被害を最小限にするために適切に対処された状態である。人々が自他の安全を確保するためには、個人だけではなく社会全体として（ア）を高め、全ての人々が安全な社会を築いていくために必要な取組を進めていかなければならない。

とりわけ、学校は、児童生徒等が集い、人と人との触れ合いにより、（イ）の形成がなされる場であり、「生きる力」を育む学校という場において、児童生徒等が生き生きと活動し、安全に学べるようにするためには、児童生徒等の安全の確保が保障されることが不可欠の前提となる。

さらに、児童生徒等は守られるべき対象であることにとどまらず、（ウ）を通じ、自らの安全を確保することのできる基礎的な資質・能力を（エ）に育成していくことが求められており、自他の（オ）尊重の理念を基盤として、生涯にわたって健康・安全で幸福な生活を送るための基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を育てることは、学校教育の重要な目標の一つである。

- （ア） ① 危険を回避するための身体能力 ② 危険回避能力 ③ 安全を確保するための思考力
 ④ 安全意識
- （イ） ① 性格 ② 学力 ③ 人格 ④ 社会性
- （ウ） ① 経験 ② 防災訓練 ③ 学校教育活動全体 ④ 講話
- （エ） ① 個別 ② 自主的 ③ 継続的 ④ 集中的
- （オ） ① 生命 ② 自主性 ③ 人権 ④ 意見

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
31	32	33	34	35

【6】 次の文は、幼稚園教育指導資料第5集「指導と評価に生かす記録」（平成25年7月改訂 文部科学省）に述べられているものである。教師の専門性を高め、指導と評価の実際に生かす記録について適切でないものを①～⑩から5つ選び、番号で答えよ。

- ① 記録は、教師自身の考えていたことやかかわり方についてではなく、幼児についてのみ行う必要がある。
- ② 保育の評価は、教師集団で行うのではなく、保育記録に基づいた教師一人一人の省察を基に、幼児理解や指導のあり方の検討を個人で行うことが望ましい。
- ③ 言動の意図が理解困難な幼児については、より一層意識的に記録を取り省察する必要がある。
- ④ 幼児の心の動きや発達は、一定の期間の記録をまとめるのではなく、一つの場面や行動のみで捉えることが大切である。
- ⑤ 遊ぶ姿を具体的に捉えた記録を基にして一人一人の幼児にとっての遊びの意義を捉えることが必要である。
- ⑥ 教師は、持続的に記録し、それを読み返すことによって、幼児の行動の傾向を把握し、直接幼児にかかわらずとも言動の展開を予測することができる。
- ⑦ 記録は保護者の幼児観や保育観を改めて自覚するためのものでもある。
- ⑧ 園全体で保育の質の向上と改善に向けて取り組む上で、複数の教師で記録を見たり書いたりすることが重要である。
- ⑨ 保育や幼児の様子を保護者に伝える手段として、写真や動画などの媒体はなるべく避けることが重要である。
- ⑩ 日々の生活や遊びの記録は、過去から現在へ、そして未来へと幼児の発達や学びを連続的に捉えることを可能にする。

36	37	38	39	40
----	----	----	----	----

【7】 次の（ア）～（オ）の説明について、適切でないものをそれぞれ①～④から選び、番号で答えよ。

（ア） エダマメ

- ① 大豆の若い果実のことである。
- ② 夏にマメ科の植物に特有な、チョウのような形の花を咲かせる。
- ③ 種まきから1ヶ月ほどで発芽する。
- ④ 種は4月から5月にまき、8月に収穫する。

（イ） ジャガイモ

- ① 地下茎の先端にイモができる。
- ② 収穫は、霜の降りる前の10～11月頃に行う。
- ③ 種イモを土に植えつけて育てる。
- ④ 芽が出る部分にはアルカロイド系の毒素が含まれている。

（ウ） アサガオ

- ① 春に種をまき、秋に種を残して枯れる一年草である。
- ② 双葉が出て、本葉が1～2枚になったところで鉢に移植する。
- ③ 毎日の平均気温が20度になる5月上旬に種をまくと、7月中旬に花をつける。
- ④ 採取した種は、翌年の栽培に使用することができない。

（エ） ヒヤシンス

- ① 容器に球根の底がひたるくらいの水をいれ、明るくて暖かいところに置く。
- ② 球根をセットして2ヶ月ほどで、根が容器いっぱいになる。
- ③ 葉の中央から花の茎が出る。
- ④ 水栽培ができる球根植物には、他にスイセンやムスカリなどがある。

（オ） アリ

- ① 黒い大形のアリはクロオオアリ、赤褐色の小形のアリはアミメアリである。
- ② 幼虫やサナギの採集は、巣を大きくしている1月下旬から2月に行うとよい。
- ③ 女王アリは産卵のみに専念し、働きアリが巣の拡大や幼虫の世話、餌集めなどを行う。
- ④ 他の巣のアリを同じ飼育容器に入れるとかみ合う。

(カ) ダンゴムシ

- ① 1年を通して、落ち葉の下や植木鉢の下で数匹が集まる様子が見られる。
- ② 節足動物門甲殻綱に属し、カニやエビと同じ仲間である。
- ③ ワラジムシとは異なり、完全に丸くはならない。
- ④ 飼育する際は落ち葉を餌にして、分解される様子を観察するとよい。

(キ) モンシロチョウ

- ① 林の縁など日陰混じりの場所を好む。
- ② 幼虫は脱皮を繰り返して大きくなり、サナギを経て1ヶ月で成虫になる。
- ③ 卵は細かなシワ模様のある1mmほどの細長い形である。
- ④ 幼虫はアブラナ科の植物を食べる。

(ク) コオロギ

- ① 鳴くのは雄のみである。
- ② 2枚の前翅を擦り合わせて鳴く。
- ③ 縄張りを主張して鳴く「ひとり鳴き」やけんかをする「争い鳴き」などが見られる。
- ④ 共食いをしない。

(ケ) モルモット

- ① 寿命は5年から7年ぐらいである。
- ② 生まれてすぐは歯がなく、目も閉じている。
- ③ 雄同士にするとけんかをし、雄と雌と一緒に飼うと繁殖するため、単独で飼育する。
- ④ 跳躍力が低いいため、囲いの高さが40cmあれば逃げることがない。

(コ) メダカ

- ① かつては童謡にも歌われるほど多く見られたが、最近は数が減っている。
- ② ヒトと同じ脊椎動物である。
- ③ 水そうは直射日光の当たる場所に置くのがよい。
- ④ プランクトンや小さな昆虫などを食べる。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

【8】 次の（ア）～（オ）の絵本の一節をA群の①～⑤から、作者名等をB群の⑥～⑩からそれぞれ選び、番号で答えよ。

- （ア） こんとあき
- （イ） てぶくろ
- （ウ） めっきらもつきらどおんどん
- （エ） もりのなか
- （オ） どろんこハリー

A群

①	著作権保護の観点により、 掲載いたしません。
②	
③	
④	
⑤	

B群

- | | | |
|-----------------|-------------------|-----------|
| ⑥ 作：ジーン・ジオン | 絵：マーガレット・ブロイ・グレアム | 訳：わたなべしげお |
| ⑦ 作：ウクライナ民話 | 絵：エウゲーニー・M・ラチョフ | 訳：うちだりさこ |
| ⑧ 作：マリー・ホール・エッツ | 絵：マリー・ホール・エッツ | 訳：まさきりこ |
| ⑨ 作：長谷川摂子 | 絵：ふりやなな | |
| ⑩ 作：林明子 | 絵：林明子 | |

	（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
A群	51	52	53	54	55
B群	56	57	58	59	60

【9】 下の楽譜について、次の（１）～（５）の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

(1) この曲の題名は何か、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① たきび ② もみじ ③ まっかなあき ④ あかとんぼ ⑤ まつぼっくり

61

(2) この曲は何分の何拍子か、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 4分の4拍子 ② 4分の3拍子 ③ 4分の2拍子
④ 8分の6拍子 ⑤ 8分の3拍子

62

(3) 楽譜の **ア** にあてはまる旋律を①～⑤から選び、番号で答えよ。

①  ②  ③ 

④  ⑤ 

63

(4) 楽譜の□イ、□ウに入るコードを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① □イ B^b □ウ C₇
- ② □イ B^b □ウ G₇
- ③ □イ B^b □ウ F₇
- ④ □イ G_m □ウ C₇
- ⑤ □イ G_m □ウ F₇

64

(5) 楽譜の□エにあてはまる和音を①～⑤から選び、番号で答えよ。

①  ②  ③  ④  ⑤ 

65

【10】 造形に用いる材料や用具について、次の問いに答えよ。

(1) 次の(ア)～(エ)について、記述が適切なものは①、適切でないものは②を選び、番号で答えよ。

- (ア) 木工用ボンドは容器から出したときは白いが、乾くと透明になる。水に溶いても使用できる。
- (イ) パスはクレヨンとパステルの特色を取り入れて開発されたもの。硬質で塗りこみやすく、混色や重色にも向いていて不透明である。
- (ウ) 段ボール紙は波上の薄い紙を貼り付け加工した丈夫なボール紙。切ったり折り曲げたりする場合は波型の方向を利用すると加工しやすくなる。
- (エ) 墨汁は水分量で薄い色、濃い色が出せ、水墨画のような表現もできる。マーブリングにも利用できる。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
66	67	68	69

(2) 次の文は、ある技法について述べたものである。この説明にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

二つ折りにした紙の一方に絵の具を厚めに塗り、もう一方を押し当て写しとる版画技法。

- ① マーブリング ② フロッタージュ ③ ステンシル
- ④ デカルコマニー ⑤ スチレン版画

70

【11】 次の文は、「幼児期運動指針」(平成24年 文部科学省)に幼児期の運動の行い方として述べられているものである。(ア)～(オ)にあてはまる適切な語句を①～⑩から選び、番号で答えよ。

幼児期は、生涯にわたる運動全般の基本的な動きを身に付けやすく、体を動かす遊びを通して、動きが(ア)獲得されるとともに、動きを繰り返し実施することによって動きの(イ)も図られていく。また、意欲をもって積極的に周囲の環境に関わることで、(ウ)が相互に密接に関連し合いながら、社会性の発達や認知的な発達が促され、総合的に発達していく時期である。

そのため、幼児期における運動については、適切に構成された環境の下で、幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に体を動かすことを通して、生涯にわたって心身ともに(エ)ための基盤を培うことが必要である。

また、遊びとしての運動は、大人が一方向的に幼児にさせるのではなく、幼児が自分たちの興味や関心に基づいて進んで行うことが大切であるため、幼児が自分たちで考え工夫し(オ)できるような指導が求められる。なお、幼児にとって体を動かすことは遊びが中心となるが、散歩や手伝いなど生活の中での様々な動きを含めてとらえておくことが大切である。

- ① 子ども同士 ② 確実に ③ 機能を高める ④ 洗練化 ⑤ 心と体
⑥ 挑戦 ⑦ 多様に ⑧ 練習 ⑨ 柔軟性 ⑩ 健康的に生きる

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
71	72	73	74	75

【12】 次の（ア）～（コ）の文章と関係の深い人物として適切なものを①～⑩から選び、番号で答えよ。

- （ア） 明治期に活躍した教育者であり、日本の音楽教育に大きな影響を与えた。唱歌は人間形成にとって重要なものであると考え、日本で最初の唱歌教材『小学唱歌集』及び『幼稚園唱歌集』を出版した。
- （イ） 世界で最初の幼稚園を創設した人物であり、各国の幼児教育に大きな影響を与えた。1826年『人間の教育』を著し、幼児期の大切さを指摘し、幼児期をあらゆる発展の基礎的段階と位置付けた。幼児のための教育遊具「恩物」を考案製作したことで有名である。
- （ウ） アメリカの哲学者、教育者である。主な著書に『学校と社会』『民主主義と教育』がある。1896年シカゴ大学に「実験学校」を開設した。子どもの興味や関心、疑問を学びの起点とすべきと考え、子ども中心主義を提唱した。子どもと環境との相互作用を経験と呼び、教育の過程は経験の再構成であると捉えた。
- （エ） ドイツの哲学者であり、主著に『自由の哲学』、『神智学』がある。人智学的教育理論を基盤にした最初のヴァルドルフ学校を1919年に設立した。教育の特徴として、12年間の一貫教育や、エポック授業、オイリュトミーなどが挙げられる。1920年以降は、治療教育、医学、農法、キリスト者共同体などの分野にも活動を展開した。
- （オ） イギリスの児童精神医学者であり、愛着理論を提唱した人物である。乳幼児期に愛情深い母親あるいはそれに代わる人との関わりをもつことが、その後の人格形成に大きな影響を与えることを主張した。
- （カ） 童謡作家として、明治、大正、昭和に活躍した人物である。代表作に、「赤い鳥小鳥」や「待ちぼうけ」、「ペチカ」などがある。数々の名曲を世の中に送り出すとともに、伝承童謡の収集や、童謡詩人の育成、児童自由詞創作指導などを精力的に推進し、日本の童謡史上に大きな功績を残した。
- （キ） スイスの心理学者であり、子どもの思考や道徳性の発達などについて研究した人物である。子どもの思考は大人と異なるとし、子どもの自己中心的なものの見方や考え方について説明した。また、子どもの発達段階は、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期の4つの段階があるとした。
- （ク） スイスの作曲家、音楽教育家である。聴取した音楽を身体の動きとして反応させることで音楽的な能力を発達させ、精神と身体的一致調和を目指す「リトミック」を創案した。音楽や舞踏、体操、演劇等の多様な分野に大きな影響を与えた。
- （ケ） 貴族や有産階級のみにかかれた幼児教育を、貧困家庭の子どもたちにも施す必要性を感じ、アメリカで幼稚園について学んできた森島峰とともに、1900（明治33）年、東京の麴町に二葉幼稚園を開設した。二葉幼稚園では、フレーベルの精神を基本とする保育を行った。
- （コ） スイスの教育実践家であり、主著に『隠者の夕暮れ』、『リーンハントとゲルトルート』がある。人の本性の道徳的、知的、身体的諸能力を調和的に自然の本性に従って発展させる「基礎陶冶」の考えを教育の理念としている。その基礎として、母と子の関係を重視し、母親の役割の重要性を説いている。

- ① 伊沢修二 ② ペスタロッチ ③ 野口幽香 ④ フレーベル ⑤ 北原白秋
⑥ ダルクローズ ⑦ ボウルビィ ⑧ ピアジェ ⑨ デューイ ⑩ シュタイナー

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
76	77	78	79	80	81	82	83	84	85